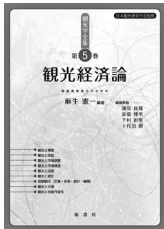


資料室便り

交通の専門図書館 交通経済研究所資料室

■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）



『観光経済論 （観光学全集第5巻）』

麻生憲一編著，日本観光研究学会監修
原書房発行
2025年9月／3,520円（税込）
所蔵箇所：信濃町

本書は、ミクロ経済学とマクロ経済学の両方の視点から観光と経済のかかわりを分析し、説明したものである。

観光は世界で最大の経済活動の一つであるが、これまで観光活動と経済活動の間の分析は十分ではなかった。本書では、その分析に必要な理論のみならず多くの事例が紹介されており、観光産業や観光行政の従事者、観光の研究者など多くの人に有益な内容となっている。例えば、ミクロ経済学的な視点からの事例として、市場におけるプライシング戦略の一つである抱き合わせ販売分析の理論は、泊食分離を分析する際に有用である。また、テーマパークを分析する際には、完全競争市場が不完全競争市場かという市場形態とその特質（供給者数、製品差別化、価格支配力、参入障壁）について考慮することが重要である。さらに、Go Toトラベル事業も、余剰分析を行うことで市場均衡にどのような効果を与えたかを考察することができる。

巻末には、観光の経済分析で用いられる用語の英訳と説明が掲載されており、概念を整理するのに役立つようになっている。（古森）

■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

『東京市街高架線東京上野間建設概要』

鉄道省発行

1925年11月

所蔵箇所：上野（一般公開中）

山手線の環状運転が開始されてから、本年11月で100年を迎えた。同線における電車運転はすでに行われていたが、東京～上野間の開業に伴い、電車による環状運転がはじまった。本書は、その環状運転を可能にした東京～上野間の建設を対象に、総説、線路、用地、工事概況、橋梁、軌道、停車場、電気設備、主要材料、建設費概算を取りまとめるとともに図面6枚と写真20枚も収めている。

総説では、東京中心部の都市計画である「市区改正」を受けて、高架線による東京～上野間の建設が1889（明治22）年に決定されてから、開業直前までの経緯が述べられている。

当初、同区間には縦貫鉄道としての機能を付与されていたが、その後、東京中心部における客貨の流動の変化を受けて、都市内交通の役割を発揮するように電車の運行可能な線路が建設された。

本書は、山手線の電車運転や環状運転については深く触れていないが、当資料室ではそれを補う図書を所蔵している。なお、資料室は、環状運転100年を迎えた同線の上野駅構内にある。（土方）

資料室からのご案内

蔵書オンライン検索、新着図書・雑誌の情報、月別新着図書目録、所蔵社史・年史のリストなどは、資料室HP（<https://www.itej.or.jp/about>）をご覧ください。

担当：古森崇史，原祥太，土方規義，田邊由佳

